

人との関り

若葉あふれる五月。爽やかな風に吹かれて、天高く鯉のぼりが泳いでいます。

清々しい季節を身体中で感じたいものです。

経営は「人との関り」を作る仕事です。関わる人を増やし、関わる人との関係をより良く築いていくこと、それが「経営」と思っています。この「関り」を構築していく上で絶対にかかせない力があります。それは「コミュニケーション力」です。

自分の想いを伝達する力、人の想いを受け取る力、この力が必要です。

苦手だからと逃げてはいけません。この自分の想いを沢山の方と関わって共有できるような経営をして行きたいと思っています。



10年間の交通安全を卒業

交通安全のために事務所前の横断歩道に立っていたのを卒業することにしました。

前回、頑張っ行ってきますと書いていたのですが、諸事情があり引退することになりました。理由は、昨年9月に社長職を息子に引き継ぎました。朝、交通安全で早く出社する為、朝礼にも参加しています。参加すると、創業経営者としてつい口を出してしまうので、朝礼に参加しないように終わった9時頃出社するようにしました。

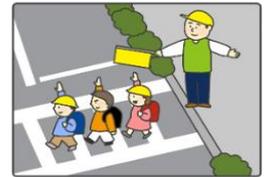
朝礼に参加しなくなったことで、新社長を中心に皆で考え良い感じの職場の雰囲気になっているようです。

立ち始めた頃は、子ども達に挨拶しても、その後は知らないふりをしていました。しかし、毎日立つことで挨拶がうまれ、笑顔で話すようになりました。この子供達とのコミュニケーション作りが

スタッフやお客様との関係づくりに繋がったように思います。この10年間交通安全で歩道に立って、お役に立つことが出来て地域の方との繋がりもでき良き出会いの場でした。

これからは、子供たちとも顔は合わせるので、成長を願い陰で見守りたいと思います。

こんな経験のチャンスを頂きありがとうございました。



テーブルの上にお手紙が

「家事手伝い」で月2回お掃除をさせて頂いているお客様があります。知人からの紹介で、半年くらい前から作業に入っています。

初回は、女性スタッフが大きな家でどこからどうやって作業を進めようかと苦心してました。しかし、慣れてきて今では自分達でスケジュールを立て、どうするかを考えて作業しています。その結果、とても気に入って頂き喜んでいただいています。

お客様とメモでやり取りをして作業確認をしているのですが、ある日テーブルの上にお手紙が置いてありました。

「お掃除の日は家に帰るのが楽しみです！」と書いてあったそうです。

お仕事で忙しいお客様に「家事手伝い」が役に立っているようで、このお手紙を読んだスタッフもとても嬉しくなると喜んで帰ってきました。また、鍵も預けて頂き、追加のご依頼を頂いたり女性スタッフへの信頼から生まれた結果です。まさに、仕事を通じての関係作りが出来たととても嬉しくなりました。

これからもこのような沢山の喜びの種まきをしていきたいです。



ハシゴをかける

定期契約でお掃除に入らせて頂いているお客様が殆どですが、作業をするだけで終わっている担当者の現場は、サイクルが長くなり、3ヶ月契約が4ヶ月になり半年になり最悪の場合は解約ということになりかねません。これは、仕事を終わらせているだけで、関係作りが出来ていないという原因からです。仕事をするという事は、意味を作るチャンスが隠れていて、それを見つけるために何をすればいいのか見つけなければなりません。まずは、仕事を通じてコミュニケーションを作っていくことが大事なのです。お客様との信頼作りの「ハシゴをかけ」だんだん高くしていくという作業です。その最初の一段で仕事の意味が決まり、お役立ちが始まるのです。

ハシゴをかけることによって、お客様に近づくお客様から「固有名詞」で呼んでもらえるようになり一段上れます。

これが「仕事の意味作り」

「ハシゴをかける」

ということなのです。



掃除文化の国「日本」

★「お掃除」が引き寄せる不思議な力

クリーン彩花の伴走人・お節介人を自称している“らく”と申します。

3年ほど前からクリーン彩花にたまにお邪魔して、裏方仕事のお手伝いをさせてもらっています。

彩花に通うたびに思うのは、スタッフの皆さんの顔がいつも爽やかで良い顔をされているという事です。きつくて大変な仕事なのに、皆さんとてもにこやかで、いつも元気をもらっています。これはどうしたことなのか？会社がいい？人間関係がいい？社長がいい？と色々理由を考えましたが、どうもそれだけではなくて、「お掃除」という仕事が引き寄せる不思議な力や意識、幸福感というものがあろうに思います。

★「トイレの神様」を大切にす国

歌手・植村花菜さんが紅白歌合戦出場に話題となった『トイレの神様』という歌があります。

トイレ掃除が苦手だった孫ににおばあちゃんが「トイレには それはそれはキレイな女神様がいるんやで。だから毎日 キレイにしたら女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで」と語りかけるところから始まります。掃除文化といえは、禅寺のお寺では「一掃除二信心」とか「一に作務、二に勤行、三に学問」という教えが大切にされ、廊下の雑巾がけ、トイレの掃除、庭の落ち葉掃きと、何よりも朝の清掃から僧侶の修行が始まります。

日本の学校も朝の掃除から始まります（海外の多くの国では学校の清掃を行うのは用務員や専門家です）寒い朝の雑巾がけは今でも記憶に残っています。今まで、学校清掃は当たり前と思い、日本文化の一部だったとは気づきませんでした。



★祓い給え、清め給え

森羅万象に神様が宿ると捉える日本人は、自然に人間をこえた霊力をおそれ祀ることを行ってきました。神主さんの祝詞にも「祓い給え、清め給え、神かむながら守り給い、幸さきわえ給え」というのが必ず出てきます。参拝の前には、手水舎で必ず手と口を清めます。神道では清めと祓いが作法として欠かせません。それは心と体のケガレをとることであり、ひいては日本ならではの掃除文化につながっているように思います。

宮崎県都城市立祝吉中学校では、禅宗の「三心清掃」という教えを実践しているとのこと。三心というのは、「心を清める清掃」（黙想をしながら自己確認する）、「心を磨く清掃」（清掃をしながら自らの心も一緒に磨いていく）、「心を鍛える清掃」（10分間一心不乱に清掃に取り組む。最後まで粘り強く清掃を行う）だそうです。

★お掃除が実現する「三方よし」

日本人にとって「お掃除」は単なる作業にとどまらず、人間観、価値観、倫理観につながる深い意味をもっていると言えそうです。

クリーン彩花の仕事はお掃除というサービスを軸に、お客様（使い手）

その場所（家庭・クリニック等）、会社スタッフ（掃除手）、にそれ

ぞれの“福”を届け、巡らせています。まさに「三方よし」の世界です。そう考えると、「おもてなしの心」と「お掃除」と「人間成長」のつながりや結びつきは会社にとって最高の無形資産だと思います。個人的にもクリーン彩花という会社の精神的な成長を見守りたいと思います。《らく》

